

様式第1号（第7条関係）

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

令和5年9月22日

和泉市長 あて

団体名 いずみこどもAID

代表者名 北野 美香、増田 千英美(

所在 地 和泉市光明台 2-4-23

電話番号 090-6730-9653

和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	学校へいきづらいうちの居場所「CoCo」 学校へいきづらいうちの保護者の交流の場 「CoCo de おしゃべり」	
申請コース	(1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース	■ステップアップコース
事業費総額	184,338 円 (うち、対象経費 184,338 円)	
支 税 金 交付申請額	92,000 円	

1. 添付資料

- (1) 団体概要調書(様式第2号)
- (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
- (3) 事業計画書(様式第3号)
- (4) 収支予算書(様式第4号)
- (5) その他市長が必要と認める書類

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

団体概要調書

フリガナ	イズミコドモエイド		
団体名	いずみこどもAID		
団体の目的	子どもが安心できる環境づくり		
市内事務所の所在地	〒594-1111 和泉市光明台2-4-23 【専用事務所・ <input checked="" type="radio"/> 住居と兼用・その他（　　）】		
	電話	090(6730)9653	FAX
フリガナ	キタノ ミカ		
代表者氏名	北野 美香		
連絡先 ※この申請について問い合わせをしたときに対応できる方	(連絡責任者氏名)※ フリガナ	<input type="text"/>	電話
	<input type="text"/>		FAX
(住所) 上記事務所以外に資料送付を希望する場合はご記入ください。			
設立年月	平成18年4月	主な活動地域	和泉市
会報等の発行	有() <input checked="" type="radio"/> 無	会員数	52人
メールアドレス	<input type="text"/>		
ホームページ	http://izumi-kodomo-aid.org/ ブログ http://ameblo.jp/cocoizumi2014/		
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイルドライン事業 ・子どもの居場所事業 		
主な活動の実績	平成12年 チャイルドラインいずみ運営委員会発足		
	平成18年 チャイルドラインいずみ AID 設立 市と協働でチャイルドラインいずみの運営		
国・府・市及び各種団体等からの他の補助金及び委託実績 (過去3年間の実績を記載)	年度	名称	金額(円)

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

様式第3号（第7条・第15条関係）

事業計画書

1 事業名	学校へいきづらい子どもの居場所「CoCo」 学校へいきづらい子どもの保護者の交流の場 「CoCo de おしゃべり」
2 申請コース	(1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース <input checked="" type="checkbox"/> ■ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
<p>① 事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等</p> <p>不登校の子どもは年々増加し、それは和泉市でも同様です。（千人率：小学校 令和元年度 6.9人→令和2年度 12.7人、中学校 令和元年度 37.4人→令和2年度 44.9人「令和3年度和泉市教育委員会の点検・評価報告書（令和2年度事業対象）」より）</p> <p>無理に学校に行く必要がないと言われるようになってきました。確かにそう思います。では、どこに行けば、どこに居ればいいのでしょうか。学校に行っていない子どもの学ぶ権利はどう保障されるのでしょうか。学ぶ権利もゆっくりと休む権利も遊ぶ権利も侵害されたままの状況です。子どもが自分らしく安心して過ごす場所を作ることが、まず一步目の権利保障になるのではないかと考え、居場所を開設しました。</p> <p>社会において不登校への理解が進んできたとはいえ、周りに相談できる相手もおらず、一人で抱えている保護者がまだまだ多くいます。子どもと一番長く過ごす保護者の心の状態は、子どもにも大きな影響を与えます。保護者の気持ちが少しでも安定する事が、子ども支援にもつながると考えました。</p> <p>②事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果</p> <p>〈学校へいきづらい子どもの居場所「CoCo」〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が大切にされていると体感することで、自己肯定感を育む 家族以外の人（スタッフ・他の子ども）と関わることで、社会性や人との距離感を身につける 自分の気持ちを大切にしながら自分のペースで過ごすことで、心のエネルギーがチャージされ、自らの力で進みだす <p>〈学校へいきづらい子どもの保護者の交流の場「CoCo de おしゃべり」〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者が自分の気持ちを吐き出すことで気持ちが少し楽になり、その結果、子どもへの関わりによる影響を及ぼす 保護者が交流の場に参加することで、他の保護者の経験談や不登校に関する情報を得て、子どもとの関わりの手がかりがつかめる 	
4 事業内容（※別紙添付可）	
<p>①問題点、課題を解決するためにどの様な方法を用いてどの様な事業を実施しますか。</p> <p>【学校へいきづらい子どもの居場所の開設】「CoCo」</p> <p>来所した子どもとスタッフと一緒に過ごす。スタッフは、指導や助言をするのではなく、子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもが自分の気持ちを大切にして、自分で選んで動いていける環境をつくる。些細なことでも自分で考えて自分で選ぶという自己決定を繰り返す過程や、その結果を尊重してもらえるという体験はその子どもの自信となり、次のステップに進んでいくことができる。放課後同級生と遊ぶようになったり、学校へ通うようになったり、逆に家庭でゆっくり過ごせるようになった子どももいる（子どもが居場所へ行き、少し距離を持つことで、保護者自身も状況を受けとめる時間ができ、子どもへの理解がすすむと考える）。</p> <p>月に一度は一般開放日を設け、興味のある方、地域の方への理解や周知を図る。</p> <p>8月に子どもが楽しめるイベントを開催し、多くの方に居場所の存在や雰囲気を知つてもらう機会とする。</p>	

	<p>かかります。「CoCo」では、家庭の経済状況に関わらず「学ぶ権利」「休む権利」「遊ぶ権利」を保障する場を作りたいと考えています。そのため、利用者からは登録費（保険代含む）のみとし、補助金やさまざまな方のご支援、バザーなど（ここ3年、コロナの影響でできず）で運営資金を調達しています。</p> <p>学校以外の居場所や学校に行かない子どもを持つ保護者同士が交流できる場はまだまだ少ない状況であるため、本事業を継続し周知していくことで、子ども本人やしんどさを一人で抱えている保護者にも浸透させていきたいと考えています。</p>
③実行性	<p>平成26年から居場所を運営し、約15名のスタッフが子どもと関わっていきます。多くの人と関わりを持つことで、価値観や距離感の違いを感じてもらうことができるのではないかと考えています。</p> <p>保護者交流会は平成27年から実施し、スタッフ2名体制で当日の運営を行っています。近くで開催されるならちょっと行ってみようかと思う人もいるのではないかと考え、令和元年より市内公共施設の4カ所を順に巡るように開催しています。公共施設は駐車場の心配もなく、参加しやすいように思います。不定期で、子ども支援に関わる方をゲストに迎え、専門的助言や気づきを得る機会を持っています。2023年度より、平日午前中仕事の保護者も参加しやすくなるよう、土曜午後と平日夜にも開催しています。</p>
④協働性	<p>不登校または学校に行きづらくなることは誰にでも起こります。今はそうでなくともこのような居場所があることを知っておいてもらいたいと考え、公共施設へのチラシ配架やポスティングなどで周知に努めています。また、2023年度は8月下旬に「プチ縁日」を開催し、地域の子どもや保護者の参加が多くありました。「CoCo」で知り合った保護者が、その後も交流を続けていることもあります。またよく聞いています。また、子どもに関わるさまざまな団体やコミュニティソーシャルワーカー(以下CSW)さんとのつながりを持ち、事業の周知や交流を図っています。CSWさんは一般開放に見学に来ていただきました。また和泉中央のフリースクールさんが行うイベントへの参加も検討中です。最近和泉市内でも保護者交流会を開催している方も増えてきました。その方々とも対話の機会やSNSでのつながり、チラシを交換するなどの連携があります。</p>
⑤公開性	<p>チラシを作成し、市役所や市内公共施設に配架。和泉市教育センターより市内小中学校へチラシを送付しています。広報いすみや泉北コミュニティにも掲載して周知をはかっています。月1回のメルマガ配信やブログ、インスタを通して、活動の様子が伝わるよう努めています。</p>
⑥発展性 (先駆性・ 展開性) (集客性)	<p>不登校は年々増加しているにも関わらず、その対応はなかなか進んでいないのが現状です。保護者だけで、または教師だけで抱えるのではなく、地域や関係者みんなが連携して、今のその子どもに適した環境を提供していくのが望ましいと考えています。この事業を始めた頃に比べて、社会の不登校に対する理解も少し進んで来たように思います。また、当事者の保護者による親の会もいくつもできてきました。けれど、保護者の仕事や経済面が理由で、誰ともつながれずにいる子どもや保護者はまだまだいると考えます。その人たちに、どうしたら「CoCo」の存在を伝えられるのか、どうしたら行ってみようと思ってもらえるのか、この課題に対して開設当初から試行錯誤を繰り返しています。</p> <p>不登校は、一時的な場合もあれば、長期に渡る場合もあります。こどもの気持ちを大切にした居場所として、「CoCo」はその選択肢の一つとして在り続けたいと思います。また、おしゃべりの場で、保護者の喜びや不安、しんどさに寄り添っていきたいと考えています。</p>

この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

事業計画書 追加資料

1 団体名	いずみこどもAID	
2 事業名	学校へいきづらい子どもの居場所「CoCo」 学校へいきづらい子どもの保護者の交流の場 「CoCo de おしゃべり」	
3 申請コース	(1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース ■ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース	
4 令和 5 年度事業における反省点・課題・問題点とそれをどのように改善するかについて記入してください。		
<ul style="list-style-type: none">「子どもの居場所『CoCo』」スタッフ体制について 午前と午後でスタッフが入れ替わると、「子どもの状況や関わりを共有する時間が持てずに交替となる。」という令和 4 年度の反省から、令和 5 年度は開設時間を短縮することでスタッフの入れ替えのない 2 名体制としたが、14 時での閉所は早いように感じた。令和 6 年度は、毎週は無理でも、開設時間を延ばすことを検討したい。広報活動について 「子どもの居場所『CoCo』」「CoCo de おしゃべり」のどちらも継続した課題となっている。令和 5 年度は、地域の様々な方に参加してもらえる子ども向けイベントを実施した。6 年度も引き続き、そのようなイベントを開催するとともに、保護者・おとな全般に向けた講演会を開催し、居場所の広報だけでなく、不登校への理解も深めていきたい。		
5 令和6年度事業において以下のことについて記入してください。		
<ul style="list-style-type: none">新たに取り組む事項令和5年度事業と比較し発展・拡大が見込める事項その他支援金を受けることで事業計画・予算・地域や市民に与える効果等に変化がある事項 等		
<ul style="list-style-type: none">受講対象を限定しない講演会の開催 「学校に行きづらい子どもの保護者」という対象をなくすことで、学校に行きづらい子どもを持つ保護者にとっても参加しやすくなるのではないかと考えている。 また、子どものことに興味を持っているおとの理解を深め、活動への参加につながるとうれしい。夏まつりイベント 令和 5 年度夏休みに開催し、約 100 名の参加があった。チラシに和泉市後援とあることや、市の広報で事業を知ってくれている方も多くおられ、信頼や安心感のもと多く参加いただけたように感じる。		

※本資料に記載いただいた内容を含め審査を行います。